

たかしまの魅力再発見 ～ 歴史文化遺産を活かす ～

チーム T M S

伊吹 英雄、中川 知香、平井 政一、峯森 清嗣

研究内容・目的

たかしまには、素晴らしい「歴史文化遺産」が数多く存在しているが、内外の人々に十分知られていないところがあることから、これら遺産の見過ごされてきた価値や魅力を改めて掘り起こすことからはじめ、それらをいかに多くの人に知ってもらうか、さらに今後どのような形で活かしたらよいかを考えることとする。

経緯

▽アカデミーの現地探訪講座で朽木地域の歴史文化遺産を見学して、心を躍らせるものが数多くあることに驚き、たかしまの魅力はすばらしく奥深いものがあると改めて認識した。

▽歴史探訪に関して、現在、市内各地域団体等による駅を基点とするいくつかのツアーが実施されているものの、そのPRや内容が必ずしも十分ではなく参加者も限られていることから、市内外の多くの人々が歴史文化遺産に接するきっかけとはならず、本当のたかしまの魅力を見つけられない場合が多いのではないかと考える。

▽そこで、歴史文化遺産に触れ、その魅力の掘り起こしのためのポイントはどこにあるか議論を重ねることとし、具体的に新たな視点によるツアーの企画や更なる魅力の発信につながるアクションを検討する必要があると感じた。

調査したこと

▽文化財・観光資源にかかる調査（1月～）

（高島市文化財資料・観光パンフレット等の収集・整理）

▽既存のツアーの開催状況調査（2月）

観光協会、まちづくり協議会、平和堂旅行センター、各ガイド団体のツアー

▽新たな視点・掘り起こしたテーマに関する調査（7月）

「文学作品」、「歴史上の偉人」などのゆかりの地

▽たかしまゆかりの「文学作品」調査（7月）

『街道をゆく』（司馬遼太郎）、『かくれ里』、『近江山河抄』（白洲正子）、
『櫻守』、『湖笛』、『流れ公方記』（水上勉）ほか

チーム活動内容

▽7月17日 市教委文化財課(主監)からの意見聴取

▽7月28日 会員制リゾートホテル(10月に市内開業予定)と意見交換
開業準備室長、マーケティング課長と面談（新旭公民館）



▽ チーム内部協議 （7/31、8/16、8/29）

▽ 9月 7日 『魅力再発見モニターツアー』の開催
（参加者11名：高島・朽木）

文学作品ゆかりの地を線的に結ぶ探訪（白鬚神社、鵜川四十八
体仏、乙女ヶ池・大溝城跡、朽木陣屋跡、旧秀隣寺庭園）



収集した情報、発見

▽ 市教委文化財課担当職員からの聴取意見

- ・文学作品からの視点による歴史遺産へのアプローチは面白い。
- ・高島市の日帰り観光客数は、令和4年度調査で約353万人で、目的別ではスポーツ・レクリエーションが41.4%で、歴史文化は6.5%と少ない。

▽ 会員制リゾートホテル関係者からの聴取意見

- ・水がきれいな琵琶湖は人気で、高島は大阪、京都から車で2時間以内。
- ・湖上スポーツのほか、田植え等の農業体験、食に関する体験に人気がある。
- ・メタセコイヤ並木や筆・和ろうそく体験など、ここでしか味わえないものが魅力。
- ・独自の花火大会や米原と結ぶ湖上ツアー(竹生島経由)等を検討中。

▽ 『魅力再発見モニターツアー』参加者からの意見

- ・文学作品と文化遺産の取合せが新しい視点であり、発信のやり方としてよいアイデアだと思う。
- ・作品を通じて作家の見た景色を思い浮かべ、作家の視点で文化遺産を見ると新鮮でおもしろかった。
- ・知っている文化遺産も地元の人の案内で説明や物語を聞くと今までと違う発見があり、魅力が倍增することを改めて感じた。



結論

たかしまの「歴史文化遺産」の味わい深い魅力を新たな視点で再発見できるよう、市民がそれらに接する機会を増やし、市外在住者からも観光の対象として「歴史文化遺産」に高い関心を持たれるように次の提案をする。

提 案

1. 歴史文化遺産に接する機会の提供

- ・視点を变えておもしろさを広げたテーマのツアーや公民館講座の企画
（例）「文学作品」、「歴史上の偉人」などのゆかりの地をテーマに
- ・次世代を担う子どもへの機会づくり
（例）「文化遺産カルタ」などの作成

2. 歴史文化遺産の情報発信を充実

- ・ネットでの動画情報の提供
（例）90秒歴史ガイドの紹介
- ・現地探訪しやすいよう新たな視点でのコースマップの作成
（例）「たかしま文学地図」 など

3. 受入れ体制の整備

- ・市内外者の案内のため、市内全域をカバーできるガイド養成とその組織化
- ・新たな視点やおもしろさを加味した現地案内板の設置

今後の展望

▽ 会員制リゾートホテルとの意見交換の機会づくりと連携したツアーの提供

▽ 観光協会やガイド団体等と一体となった歴史文化ツアーの企画・運営

▽ 多様なニーズに対応した歴史文化と体験活動を取り込んだメニューの開発

▽ 歴史文化のさらなる魅力や最新情報等ネットによる発信力の充実

▽ 市民みんなが学んで、関わる「ちょこっとガイド」地域の整備

▽ 歴史文化遺産のさらなる発掘とそれを活用した地域活動の検討